

ここが  
魔女の館ですね

はい

最近  
村の近くに  
魔物が良よく  
出没するように  
なりました

原因はきつと  
ここに住む  
魔女が関係しているに  
違いありません

なるほど



入口からすでに  
まがまがしい  
気を感じます

魔女は  
この中です



捨て子だった  
私も一度  
教会に  
命を救われた身です

自分が  
助けて頂いた  
時の様に  
私も誰かの  
役に立てたら  
と思っています

なので  
困っている  
人に手を差し伸べるのは  
私の責務であり  
喜びなのです



でもエレナさんに  
来て頂いて本当に  
助かりました

こんな田舎の  
村には街からの  
救援もなかなか  
来てもらえないので



ユーシャさん



はい！

さあ  
魔女を  
説得しに  
いきましょう！



それに…

いえ  
なんでも  
ありません

私はユーシャさんの  
事が好きだから  
来たなんて  
言えませんね

それで  
ここまで  
来たってワケねえ

でも残念  
魔物の騒動の  
ことなんて  
私全然知らないの

それより  
アナタ  
面白い  
趣味してるのね

えんはミ

ほら  
あなたの  
望み通り  
そのボウヤの  
体を小さくして  
あげたわよ

しゅる  
しゅる

えん!?  
えん!?

うわぁぁ!!

ユーシャさんの  
体が  
小さく!?





そっ  
そんなこと  
私は望んでないっ!



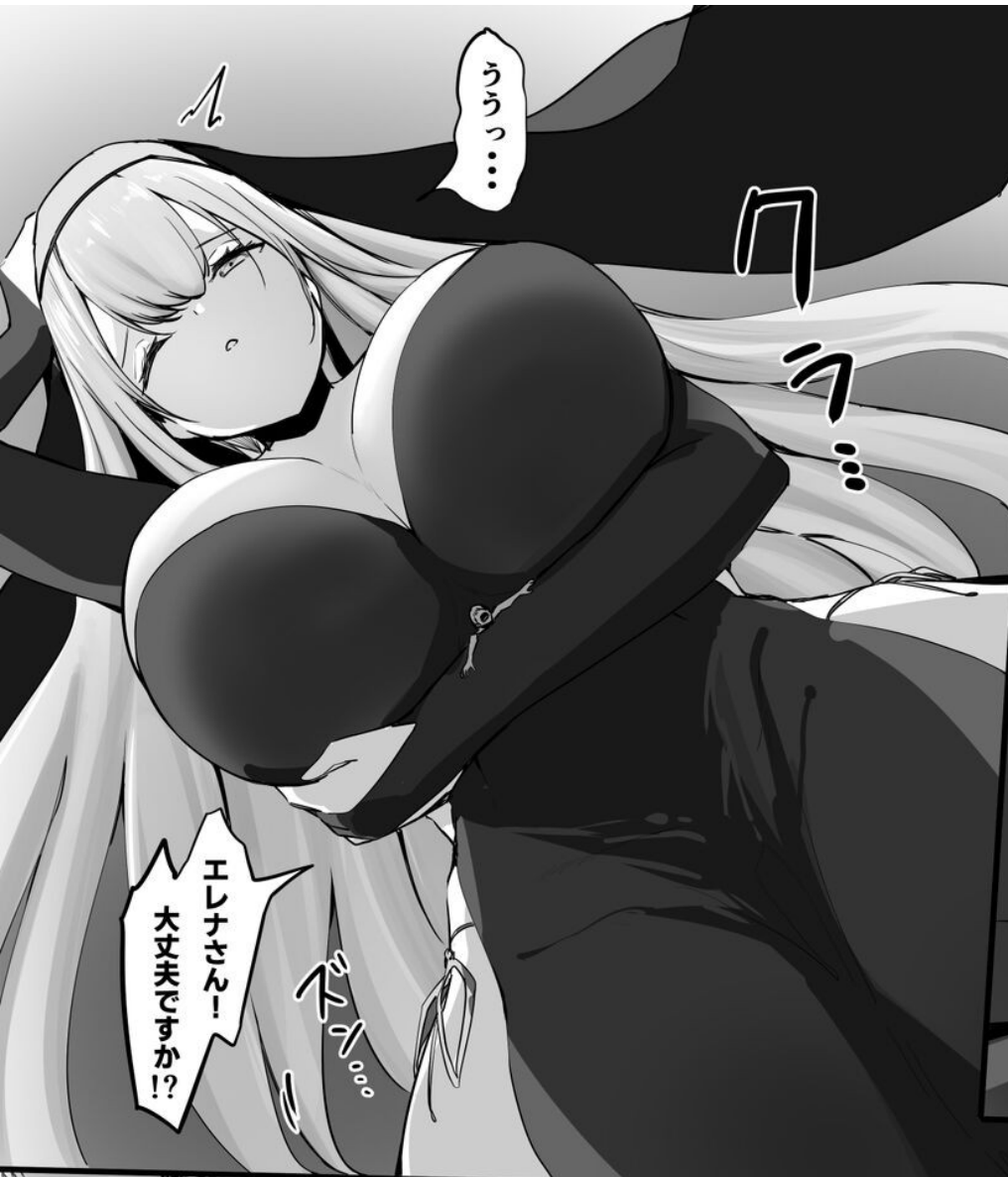
館の入口で  
このボウヤの  
ことをあんなに  
自分の物にしたって  
思ってたクセに

感情がダダ漏れで  
こっちまで恥ずかしい  
くらいだったわ



正直に  
させてあげる  
目を合わせて...

え...?



ううっ...

クッ...

エレナさん!  
大丈夫ですか!?

ブッ...



はっ  
離して!

うわ!!

ハッ!!



はぁ

はぁ

はぁ...



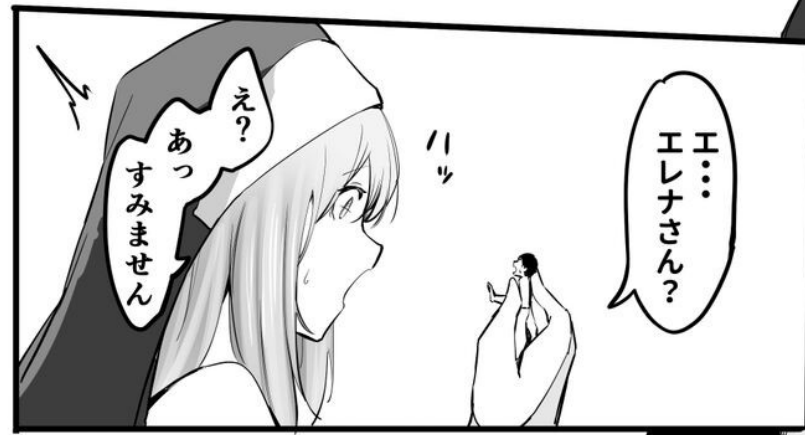
それじゃあ  
二人で楽しんでね

まっ...

バッ

バッ

バッ





エレナさん…  
あんなに苦しそうに  
して大丈夫かな

はぁ  
はぁ  
僕の体も  
元に戻るん  
だろうか



バヤサ



エレナさん  
水を  
汲んできました

あの…  
僕裸なので…  
あまり見ないで  
頂けると…



エレナ…さん？

えっ!?



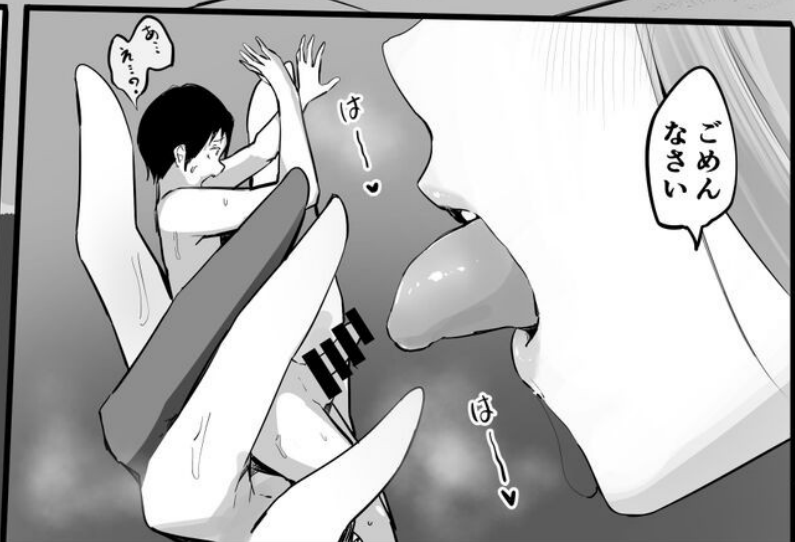
ありがとう  
ございます

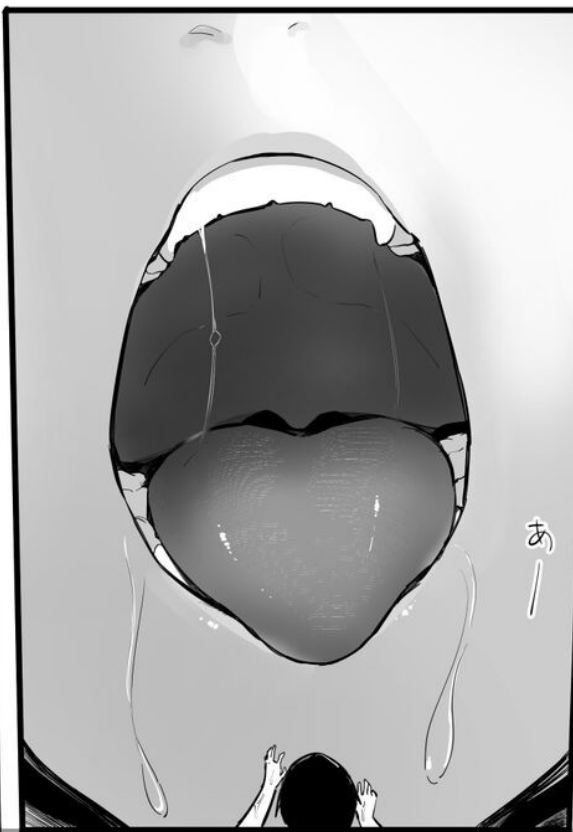
もっと近くに  
来てもらえますか？

はい

もっと…

？





胃の中全部  
満たして...!

よだれがっ...



好きい...!!

好き!

っっっっっ

しゅわ♡

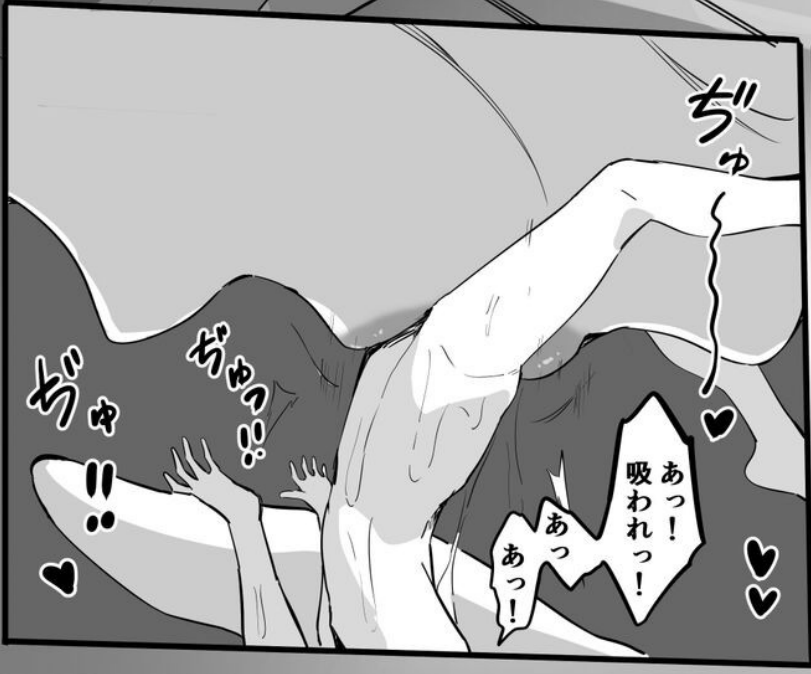
じゅわ♡  
ぢゅわ♡

だら  
だら

エレナさん...  
一体どうして  
しまったんだ!?

こんな  
淫らに...!

しゅわ♡



ぢゅわ

ぢゅわ!!

ぢゅわ!!

あっ!  
吸われっ!  
あっ  
あっ!



ぢゅわ!!

もう  
射精  
しちゃう...!



じゅわ!!

抵抗しても  
全然敵わない...!

怖い!

じゅわ!!













エレナさん  
意識が  
戻った!?



わああ!?



はやっぐっ!!!



「このままでは… 私… コーシヤさんの「こ」を…」

でっ…  
でもー!













あれ  
「こ」は……?

うん……



なかなか  
起きないので  
心配したのですよ



お目覚め  
ですか?  
ユーシヤさん

!



なんだか  
雰囲気か前と少し  
違うような……

あれ?



エレナさん  
正気に戻ったんだ

良かった……



エレナさん…？

カトレア様  
ユーシヤさんが  
目を覚ましました



どうして魔女と  
話しているんだろう？

そうね



わっ！

え？







わあ！♡

一瞬で豆粒よりも  
小さく……

これ  
すっごく  
カワイイですね！

そんな  
と……



スッ

ツク

スッ

スッ  
スッ

!!!



もはや私が歩く歩幅の  
大きさどころか...

足のサイズ数十センチ  
移動するのですら

ユーシャさんに  
とっては  
体力を使ってしまう  
距離なのですわね

※身長5mm



じゃあ  
手伝って  
あげます...  
よ♡

かわいらし  
すぎますっ!♡  
そんなちっちゃな足で  
ヨチヨチと

でも  
足は凄く早く  
動いてるのに  
全然進めませんね♡



そこに居ると  
私の靴でうっかり  
すり潰してしまいますよ?

ねえ...  
逃げてみてください

ズ

ズ

ズ

ズ

ズ

ズ

ズ

ズ

ズ



〜ン〜ン〜ン



きゅん



あらっ  
動かなくなつて  
しまいました

ごめんなさい  
少し驚かせすぎて  
しまいましたね



あつ  
すみません!

私だけ  
楽しんで  
しまつて...

カトレア様も一緒に

やらないわよ

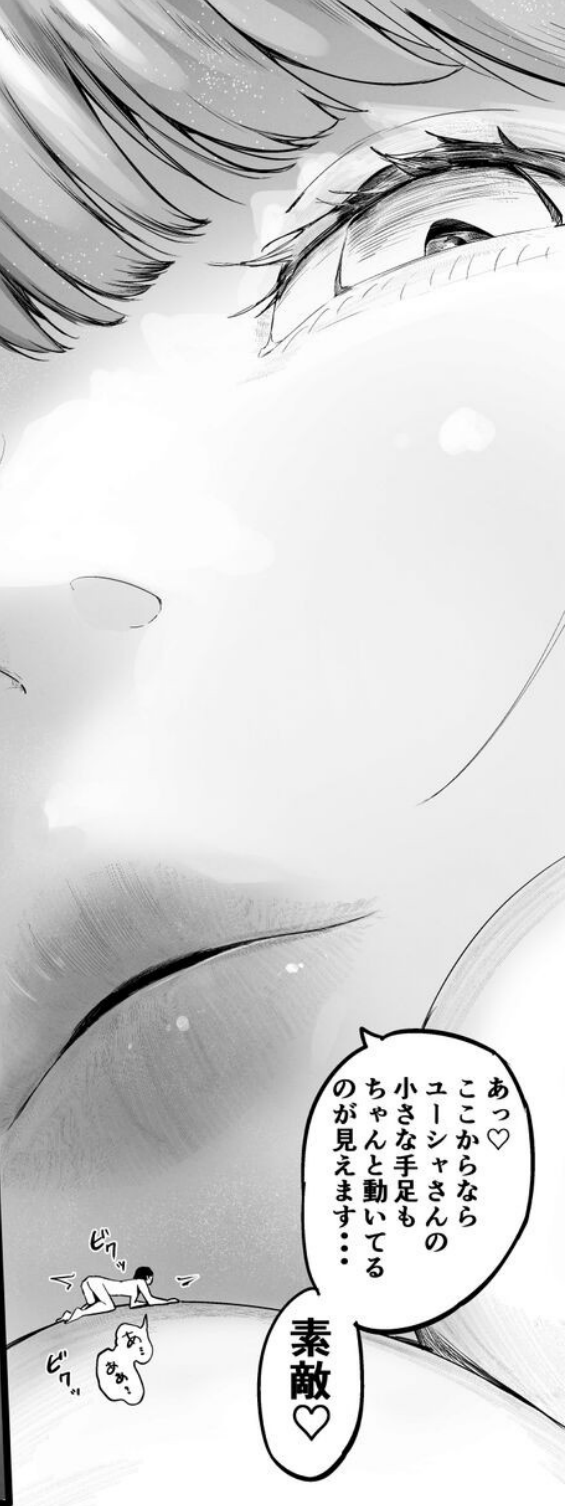
早く2人で  
どこか行きなさい



これからは  
いつでも他人を  
小さくできるわよ



それと望み通り  
今の縮小魔法の  
魔力を  
その石にも  
貯めておいたから

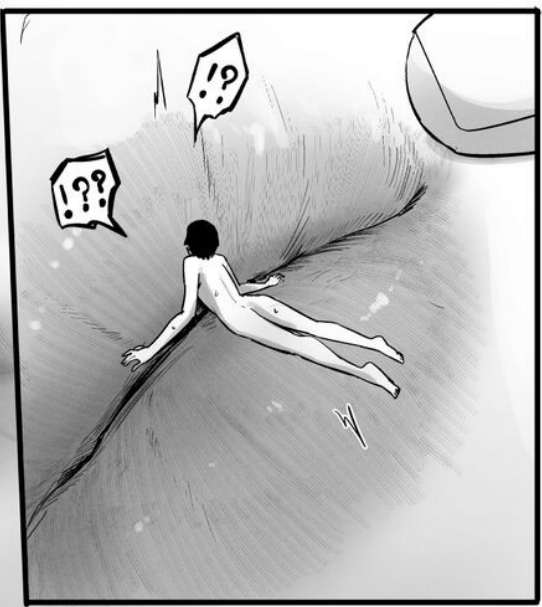
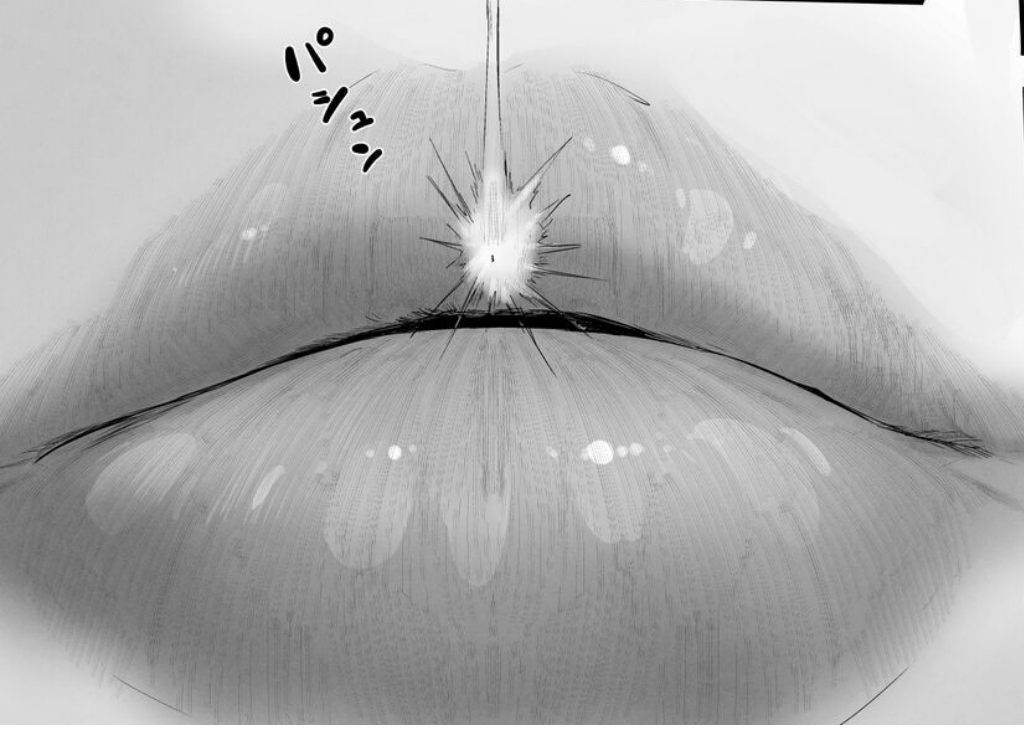
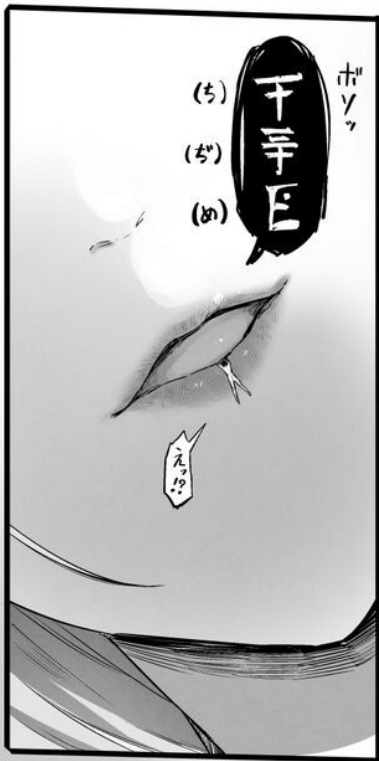


あつ♡  
ここからなら  
ユーシャさんの  
小さな手足も  
ちゃんと動いてる  
のが見えます...

素敵♡







ズ

僕の体  
また小さくされた!?



息で  
ユーシャさんを  
吹き飛ばさない  
ように...

喋るのは  
ガマン♡

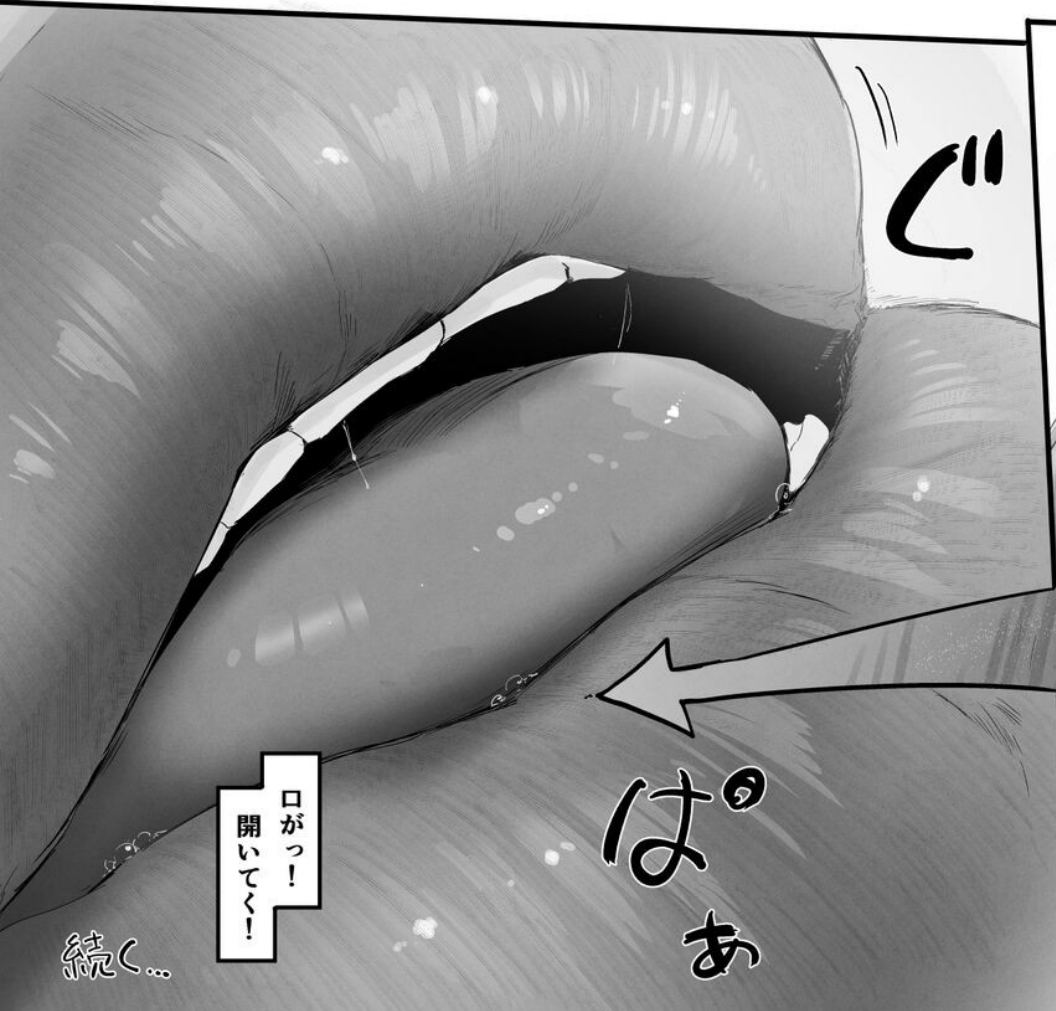
え!?



ズ

ここは...?  
この正は...

ズ



じ

さっきまで居た  
くちびるの上!?

ドクン...  
ドクン...

ひっ!!

口がっ!  
開いてくー!

はあ

続く...

\* 0.3 mm





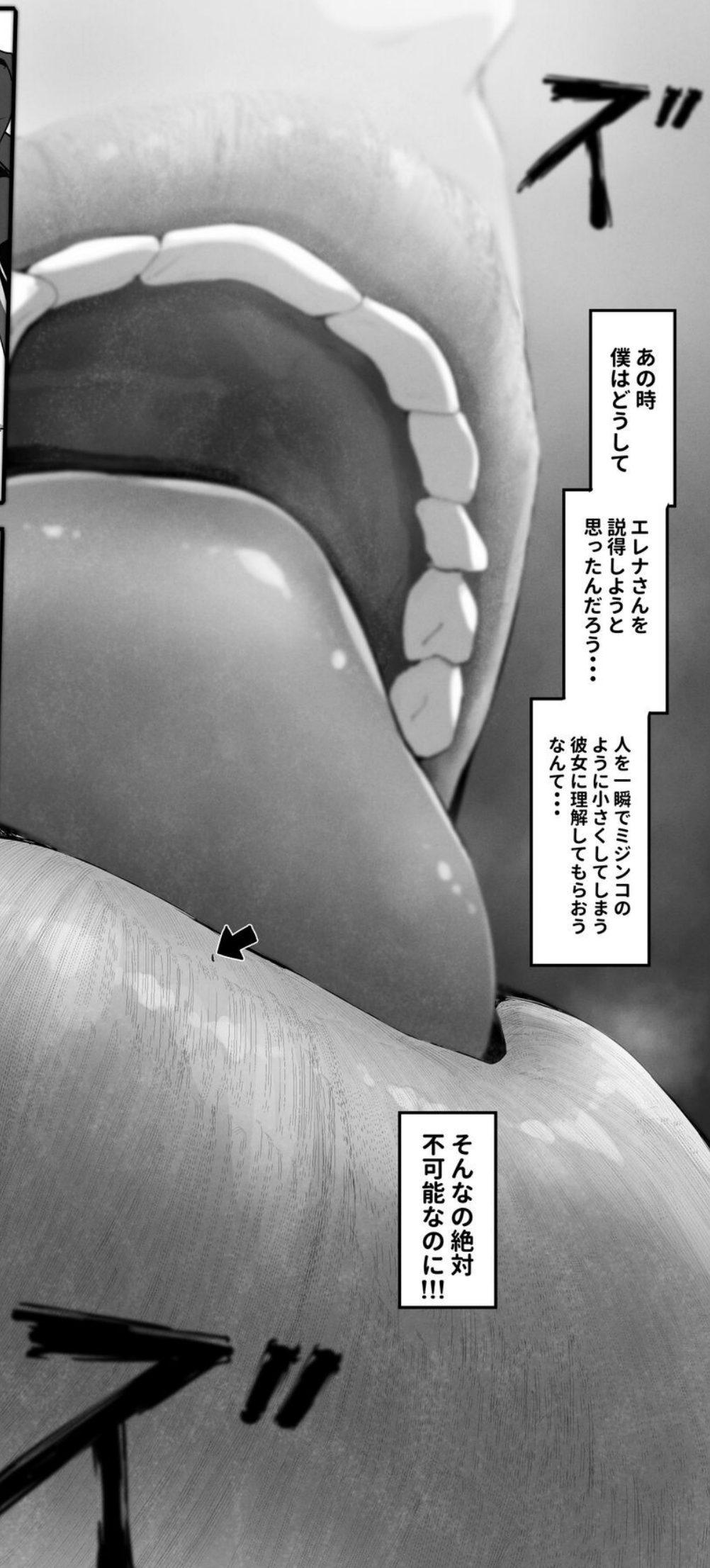
ズ

あの時  
僕はどうして

エレナさんを  
説得しようと思  
ったんだろう…

人を一瞬でミジンコの  
ように小さくしてしま  
う彼女に理解してもら  
うなんて…

そんなの絶対  
不可能なのに!!!



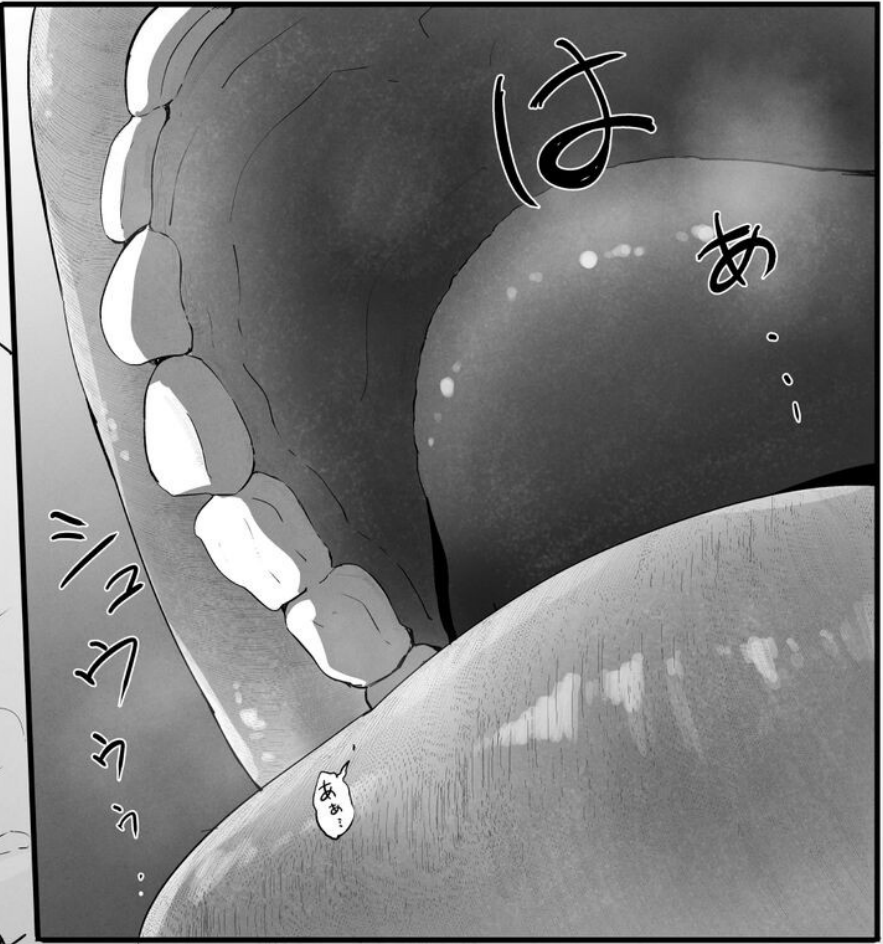


天罰は  
そろそろ  
終わりにして  
あげましょう

少し  
大きくして...

いっ  
あゝ  
...

!

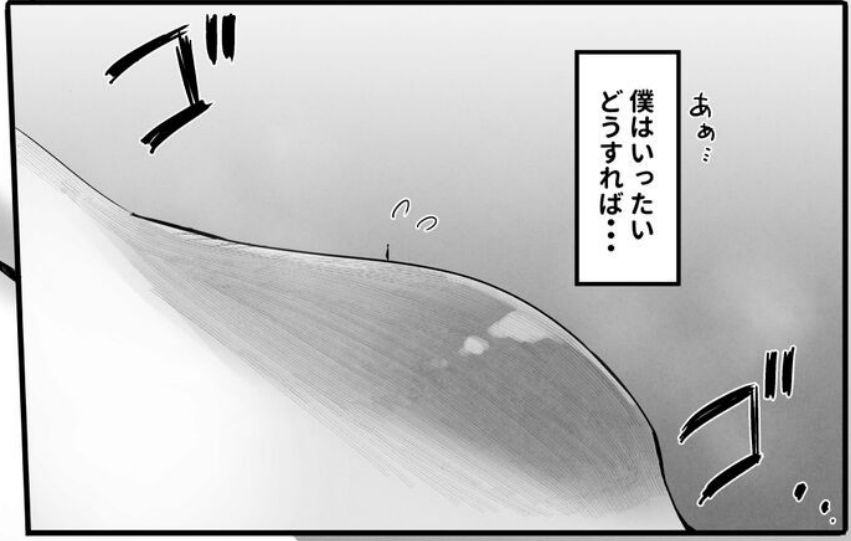


は

あ

ミクミン...

あゝ



エ

あめ...  
僕はいつたい  
どうすれば...

ゴ



うぬ

し

いめんさ...  
いめんさ...  
うぬ

ひん...  
...







確か僕は  
エレナさんの  
唇の上で  
とてつもなく  
小さくされて…

あれ？  
ここは？

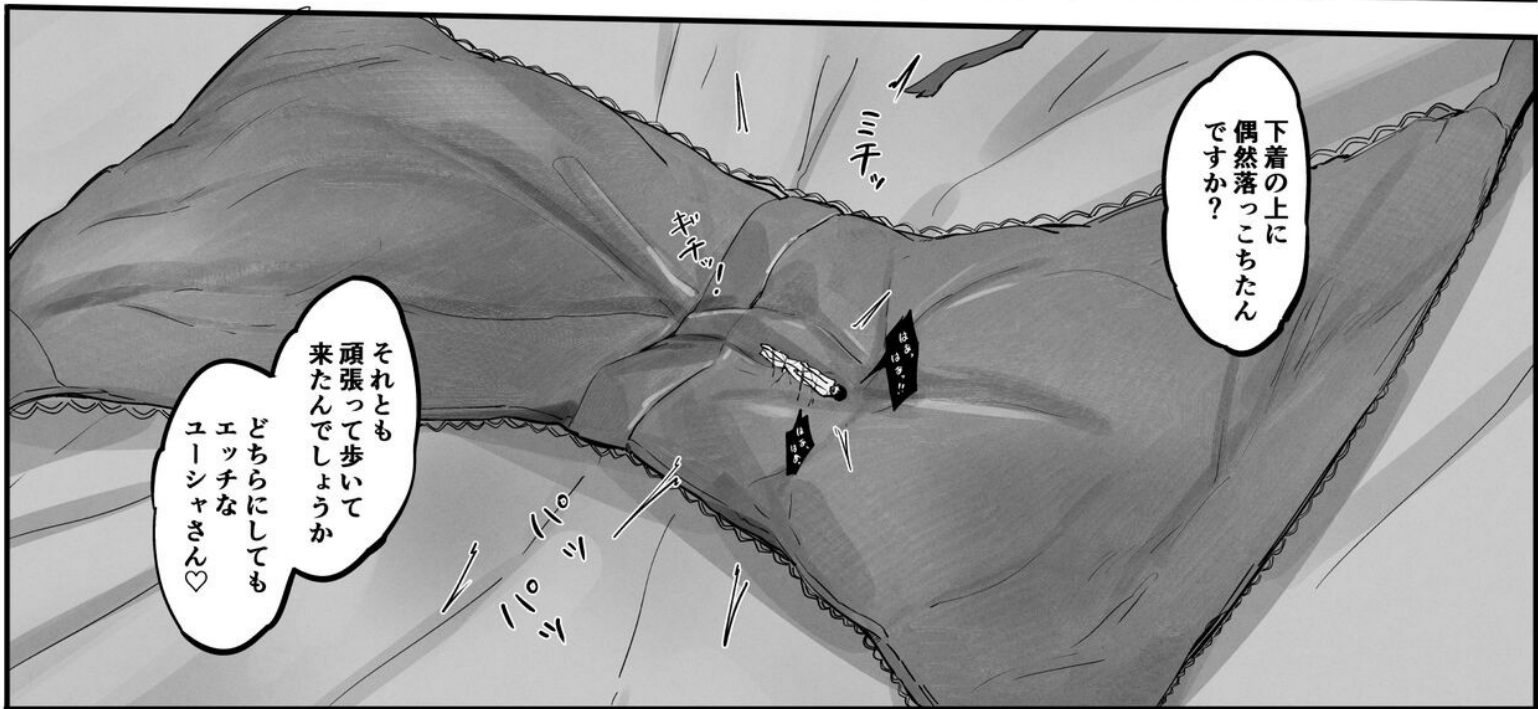


体の大きさがっ  
元につ  
戻っ!!?



それから…  
どうなったんだっけ…?

縮小 1/5'000 サイズ  
ショーツの繊維の上







ユーシャさん  
元の大きさに  
戻りたいと  
思っていますか？

今なら  
少しだけ  
その願いを  
叶えてさしあげても  
いいですよ...？



うれしい...♡



いえ  
戻りたく  
ないです

終わり



一度やって  
みたかったんです  
小さくした男の人を  
私の下着として  
密着させるの♡

じゃーん  
あなたの  
手足に  
ヒモを結んで  
あげました

これで私の  
「おパンツ」に  
なっちゃいましたね  
え？

わんわん♡

わんわん♡

わんわん♡



いかかですかあ？  
これ程大きな  
女の人のお○んこを  
至近距離で見たのは  
初めてですよ♡

これ…  
私としても  
ちよつと  
恥ずかしいです♡

わんわん♡

わんわん♡

